科目名			担当教員	
心理アセスメント			渡部　純夫	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
FF2519	2	1	RorSR (講義)	1 年以上
生成 AI 利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※2017 年度以前に入学した方が対象の科目です。2018 年度以降に入学した方は履修登録できません。
※2018 年度以降に入学した方は、「心理的アセスメントⅠ」（科目コード：FF3553）を参照してください。
※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2026 年度は開講しません（次回開講は 2027 年度）。
※オンデマンド・スクーリングは 2026 年度も開講予定です。

科目の概要

■科目の内容

悩みを抱えているクライエントに心理的援助を行おうとするとき、クライエントを多面的、総合的、全人的な角度からとらえることが必要になります。そのためには、クライエントの生育歴やパーソナリティ、環境などの情報を科学的にとらえ、客観的に評価・査定することが重要です。この評価・査定の方法がアセスメントです。心理アセスメントでは、特に「面接法」「観察法」「検査法」よりクライエントへの接近を試みることになります。そのとき大事なことは、クライエントの気持ちに寄り添いながら癒しの心を忘れないことです。心理アセスメントでは、これらのことを押さえた評価・査定の学習を行うことになります。

■到達目標

１）心理面における正常・異常の違いについて説明できる。
２）心理アセスメントの３本柱である「面接法」「観察法」「検査法」について具体的に論じることができる。
３）アセスメントにおいて、倫理面を十分に配慮した報告書を書き、報告することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人間理解力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 60%＋スクーリング評価 or 科目修了試験 40%

■教科書・参考図書

【教科書】

日本健康心理学会編『健康心理アセスメント概論』実務教育出版、2002 年

（スクーリング時の教科書）教科書は参考程度に使用します。

【参考図書】

鈴木睦夫著『TAT の世界』誠信書房、1997 年
鈴木睦夫著『TAT パーソナリティ』誠信書房、2000 年

成瀬悟策著『動作療法』誠信書房、2000 年
村瀬嘉代子著『心理療法のかんどころ』金剛出版、1998 年
片口安史著『改訂　新・心理診断法』金子書房、1987 年
河合隼雄著『心理療法序説』岩波書店、1992 年
岡堂哲雄著『心理テスト』講談社現代新書、1994 年
藤掛明著『描画テスト・描画療法入門』金剛出版、1999 年
岡堂哲雄編集『心理査定プラクティス』（現代のエスプリ別冊）至文堂、1998 年
C・コッホ著『バウム・テスト』日本文化科学社、1970 年
野島一彦編著『臨床心理学への招待』ミネルヴァ書房、1995 年
下山晴彦・松澤広和編『実践心理アセスメント』日本評論社、2008 年
村上宣寛・村上千恵子著『臨床心理アセスメントハンドブック［改訂版］』北大路書房、2008 年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

「心理アセスメント」では、臨床心理学的視点から、対象となるクライエントをどのようなことに注意を払って捉えていくのかを話していきます。そのためには、「正常と異常」の捉え方や、心理学モデルからの見立て、さらには言語的・非言語的な面からの評価をどうすればよいか、身につける必要があります。講義では、日ごろの人との接し方を思い起こしながら、学んでほしいと考えています。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	正常と異常の判断方法	平均的規準、病理的規準、価値的規準、民俗的規準、発達的規準
2	心理臨床家の視点	身体と心理、問題の捉え方、社会的視点、病理の捉え方
3	アセスメント①	面接法のポイント
4	アセスメント②	観察法のポイント
5	アセスメント③	検査法のポイント
6	アセスメントと見立て	問題の心理的テーマのほり下げ方
7	アセスメントと目標	短期目標・長期目標
8	まとめ	
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

資料は用いずに、アセスメントの考え方をわかりやすく伝えていきたいと思います。

■スクーリング　評価基準

授業への参加状況（20%）＋スクーリング試験（80%：持込不可）
試験では、アセスメントの基本について問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

「面接法」「観察法」「検査法」についての内容を、教科書を中心に調べ、自分が他人を評価するときの特徴についてまとめてきてください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	アセスメントの意義と役割（第１章）	健康心理アセスメントとは、アセスメントの意義と役割 キーワード：情報性、弁別性、刺激性・治療性、科学性・客観性　など	アセスメントのもっとも重要なポイントとアセスメントとは何かを理解する。その上で、４つの意義と役割について学ぶ。
2	アセスメントのターゲット①（第２章）	健康心理学の目標と活動分野・活動領域とアセスメント キーワード：健康科学、心理学、生物心理社会的視点、生涯発達心理学的視点	アセスメントを行うための視点について、領域ごとに必要な条件を理解し、深く洞察する。
3	アセスメントのターゲット②（第２章）	医療・職場場面におけるアセスメントターゲットの概略、女性の健康心理学 キーワード：医療、職場、女性	実際の場面におけるアセスメントの事例を踏まえ、社会生活における他の場面への応用についても考えてみること。
4	アセスメントの方法（第３章）	面接法、観察法、質問紙法、検査法、心理生理学的測定、調査 キーワード：構造化面接、行動観察、知能検査・適性検査、人格検査	アセスメントの方法で重要な「面接法」「観察法」「検査法」等について理解する。
5	アセスメント法の必要条件（第４章）	信頼性、妥当性、基準（標準化）、実用性（費用対効果） キーワード：内容的妥当性、構成概念妥当性	アセスメントを行うにあたって「信頼性」「妥当性」の必要な条件を理解し、深く洞察する。
6	アセスメントの留意点（第５章）	心理アセスメントの展開と健康心理学、選択およびバッテリー構成上の留意点、実施上の留意点、採点上の留意点、解釈・評価・診断上の留意点 キーワード：生活習慣の健康、一般性など	「アセスメント」を行うにあたって、実際的な留意点について深く理解する。
7	「パーソナリティ」のアセスメントの種類と活用①（第６章）	パーソナリティ、健康度・健康観 キーワード：直接的アセスメント、間接的アセスメント　など	「アセスメント」において、人間の全体性を意味する「パーソナリティ」とのつながりについて深く理解する。
8	「パーソナリティ」のアセスメントの種類と活用②（第６章）	QOL、タイプＡ キーワード：QOL、タイプＡ行動パターン、虚血性心疾患	「生活の質」や「人生の質」について、「アセスメント」をどのように活用するか学び、日本人の性格特性である「タイプＡ」との関係も考える。
9	「ストレスと情動」のアセスメントの種類と活用①（第７章）	ストレッサー、ストレスコーピング、バーンアウト キーワード：セリエ、ラザルス、ストレッサーなど	「ストレス」に伴う関連要素について、その意味や使い方について考える。

10	「ストレスと情動」のアセスメントの種類と活用② （第７章）	不安・怒り・神経症傾向、気分（抑うつ、など）「痛み」の測定 キーワード：神経症、気分障害、痛み	「ストレス」と連動して問題化する、「不安や怒り」「抑うつ」「痛み」などについて理解する。
11	「生活態度・習慣」のアセスメントの種類と活用① （第８章）	ライフスタイル、食行動 キーワード：生活習慣、食行動	人間の「ライフスタイル」や「食行動」をどのようにアセスメントするか考える。
12	「生活態度・習慣」のアセスメントの種類と活用② （第８章）	リスク行動 キーワード：リスク要因、リスク行動	日常生活を営むにあたって「リスク」をどのように考え、どうかかわるかについて、「アセスメント」するための方法について考える。
13	「社会関係」のアセスメントの種類と活用① （第９章）	ソーシャル・サポート、人間関係 キーワード：ソーシャル・サポート、介入、愛情	「ストレス」軽減のために有効である、「ソーシャル・サポート」「人間関係」の「アセスメント」について学ぶ。
14	「社会関係」のアセスメントの種類と活用② （第９章）	社会的スキル キーワード：不適応、社会性、自我	「社会適応」するためのスキルをどのように見つけることができるかについて「アセスメント」のあり方について学ぶ。
15	アセスメントにおける倫理的諸問題 （第 10 章）	問題と課題 キーワード：倫理違反、問題点	「アセスメント」を行うにあたって、「倫理的配慮」が必要になる。「アセスメント」と「倫理」の関係について深く学ぶ。

■レポート課題

１単位め	クライエントを多面的・総合的・全人的にとらえようとしたとき、心理アセスメントにおける「面接法」「観察法」「検査法」を的確に活用し、クライエントの人格像が見えるように整理しなさい。
２単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

クライエントの心理を理解するためには、どのようなアセスメントの方法を身につけておかなければならないかをまず学習していきます。心理アセスメントというと、どうしても心理テストに偏りがちなのですが、ここでは「面接法」「観察法」「検査法」の３つの方法について学習を深めていき、総合的なクライエント理解を考えていきます。心理テストによるアセスメント（＝検査法）も重要なのですが、「面接法」「観察法」「検査法」はそれぞれ独自の特徴を持っています。その特徴をよくつかみながら、上手に組み合わせて使いこなすことにより、より効果的なアセスメントが可能になります。

また、アセスメントで特に注意を払わなければならないことの一つに、クライエントのパーソナリティの問題をあげることができます。パーソナリティを読み解き理解していくためには、パーソナリティとは何かをまず知らなくてはなりません。その上で、自分なりの考え方をしっかりと身につけていくことが重要になります。パーソナリティの理解は、「面接法」「観察法」でも行われるわけですが、より客観性を求めていくと「検査法」である心理テストに行き当たります。そこで、興味を持った心理テストを取り上げ、自分なりに調べてみることにより、心理テストのいろいろな特徴について理解を深めてもらいたいと思います。

【1 単位めアドバイス】

⑴ テキスト『健康心理アセスメント概論』の第１章・第２章・第３章をよく読み、アセスメントとは何なのか。その必要性と意義について幅広い観点から学習してください。自分の中のイメージをふくらますことができたら、アセスメントの方法に進んでください。

⑵ アセスメントの方法にはいくつかのものがありますが、特に「面接法」「観察法」「検査法」の理解を深めてください。「検査法」と関係の深いものに「質問紙法」「心理生理学的測定」があります、あわせて学ばれると「検査法」に関しての理解が広がると思われます。

⑶ それらを、実際的な場面を想定しながら自分なりにまとめていくことにより心理アセスメントの方法が自分なりに理解できてくると思います。それを、整理しレポートにまとめてください。

【2 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

科目修了試験

■評価基準

１ ）アセスメントの意義を体系的に理解しているか。

２ ）心理テストの内容を学習しているか。

３ ）アセスメントの応用ができるか。

４ ）現代社会の心理的問題の背景に対し自分の考えを持っているか。

５ ）対象としてのクライエントが見えているか。